

2026年3月期 第1四半期 決算説明会

2025年8月7日（木）

目次

- 1 2026年3月期 第1四半期 実績
- 2 2026年3月期（通期）業績予想
- 3 事業別の概況
- 4 トピックス

これら、目次に沿って説明をいたします。

1

2026年3月期 第1四半期（FY25Q1）実績

1 FY25Q1業績サマリー

受注高は5月時点予想より大きく上振れ、Q1営業利益確保は2年ぶり、純利益を確保

		進捗率	前年同期比	変動要因
売上高	400 億円	20 %	+ 62 億円 + 19 %	<p>前年同期比</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 売上高は大幅増収。国内建築、国内土木が大きく貢献 ● 営業利益は黒字転換。国内建築が大きく貢献 ● 純利益は主に営業利益の増益により+6億円の増益 ● 受注高は国内土木が大きく貢献し大幅に増加 <p>5月時点予想比</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 売上高は若干の未達。国内土木は達成するも 海外土木、国内建築、海外建築は工事進捗の遅れの影響で未達 ● 営業利益は達成。国内建築が貢献、洋上風力建設は費用発生の期ずれ ● 上場株式と固定資産の売却益が純利益に貢献 ● 受注高は国内建築と国内土木が貢献し、大幅に上振れ
営業利益	6 億円	5 %	+ 9 億円 黒字転換	
親会社株主に 帰属する純利益	5 億円	6 %	+ 6 億円 黒字転換	
受注高	680 億円	32 %	+ 154 億円 + 29 %	

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

3

第1四半期の業績サマリーです。以降の数値は全て、連結のものです。

受注高は5月予想より大きく上振れ、営業利益、純利益ともに黒字を確保しました。

売上高は400億円となりました。

各指標の右側に通期予想に対する進捗率と前年同期比を金額と比率で示しています。

売上高は、5月時点の通期予想に対して進捗率20%、前年同期比で62億円の増収となりました。増収の要因は、国内建築と国内土木の豊富な手持ち工事が進捗し、貢献したためです。

営業利益は、6億円となりました。国内建築、国内土木と海外建築が前年同期比で増益でした。

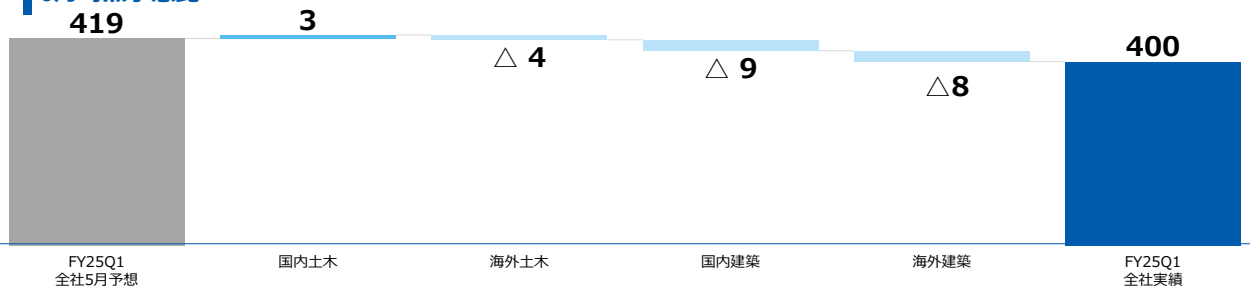
親会社株主に帰属する純利益は、5億円となりました。後ほど説明しますがROIC（投下資本利益率）を重視する経営として、不要不急の資産の売却を進めています。この四半期では上場株式と固定資産の売却により、特別利益として3億円の計上がありました。

受注高は、前年から154億円上回り、680億円を計上しました。

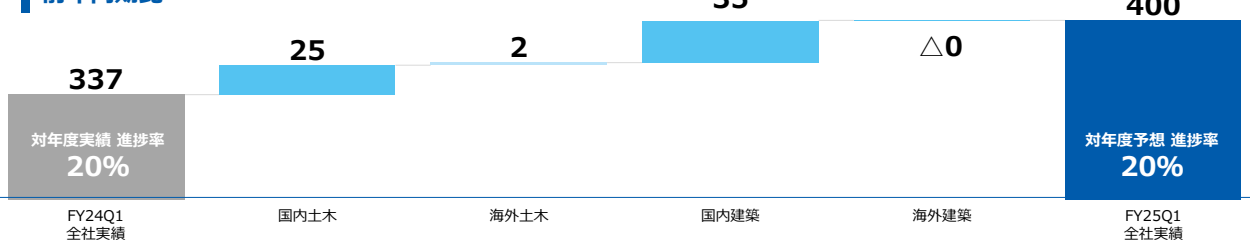
1 FY25Q1売上高 - セグメント別の変動

(単位：億円)

5月時点予想比



前年同期比



© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

4

売上高の変動について、セグメントの動きで説明いたします。上段が5月時点予想比、下段が前年同期比です。

予想比では、19億円の未達となりました。これは主に国内建築と海外建築の下振れによります。各セグメントについては後ほど詳しく説明します。

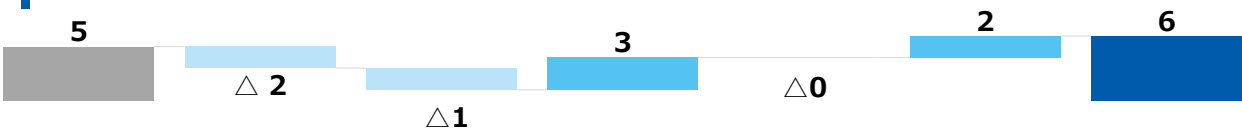
前年同期比では、62億円的大幅増収となりました。これは、国内建築と国内土木の貢献によるものです。

1

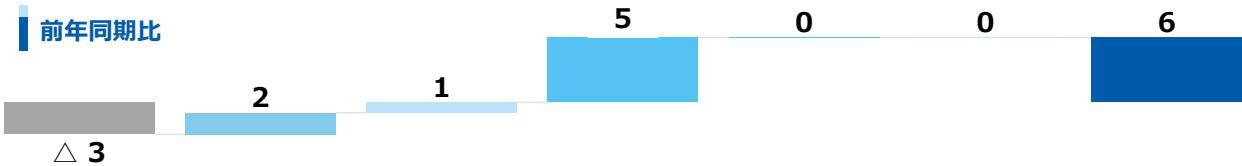
FY25Q1営業利益 - セグメント別の変動

(単位：億円)

5月時点予想比



前年同期比



FY24Q1
全社実績

国内土木

海外土木

国内建築

海外建築

洋上風力建設

FY25Q1
全社実績

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

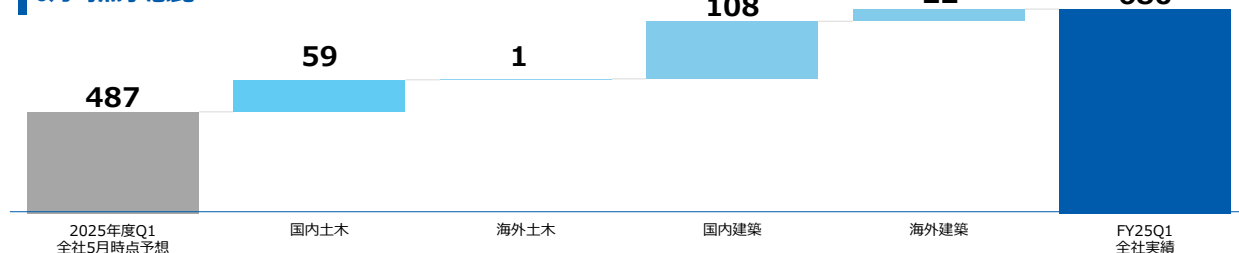
5

つづいて営業利益の変動についてご説明します。
 6億円の実績となり、予想を達成しました。基盤事業においては国内建築が上振れし、国内土木、海外土木、海外建築が若干下振れしました。なお、洋上風力建設ですが、費用の期ずれのため2億円の上振れとなりました。
 前年同期比では、前年の赤字から今期は黒字に転換しました。
 国内建築が大きく増益し、国内土木、海外建築も増益となりました。

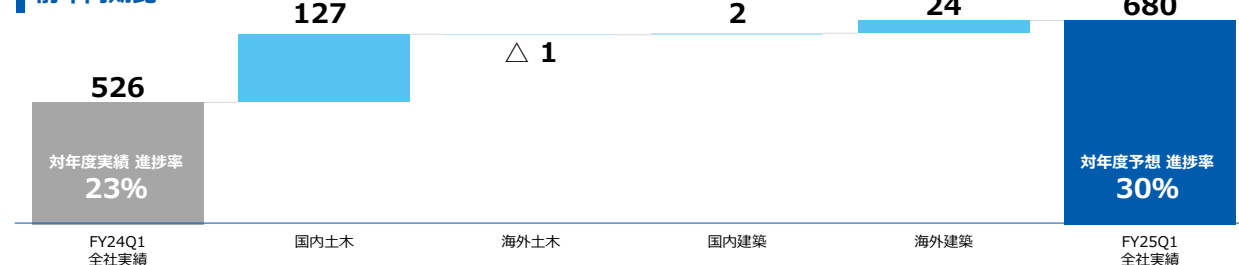
1 FY25Q1受注高 - セグメント別の変動

(単位：億円)

5月時点予想比



前年同期比



つづいて受注高の変動についてです。

上段、5月時点予想比ですが、プラス193億円の増となりました。これは国内建築の大幅な増加によるものです。

国内土木、海外建築も伸ばしました。

下段の前年同期比では、プラス154億円の増となりました。国内土木が大きく伸ばしました。

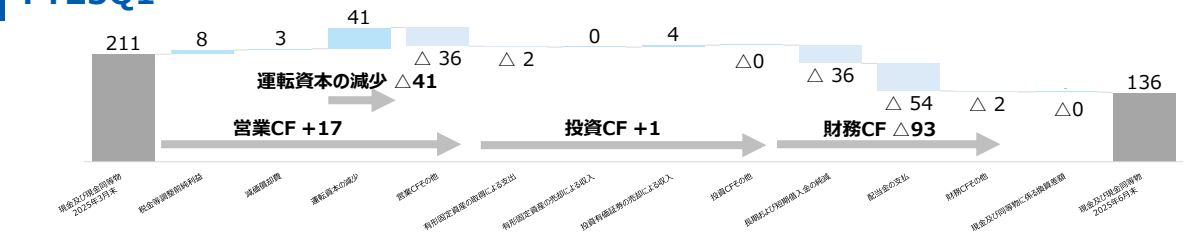
© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

6

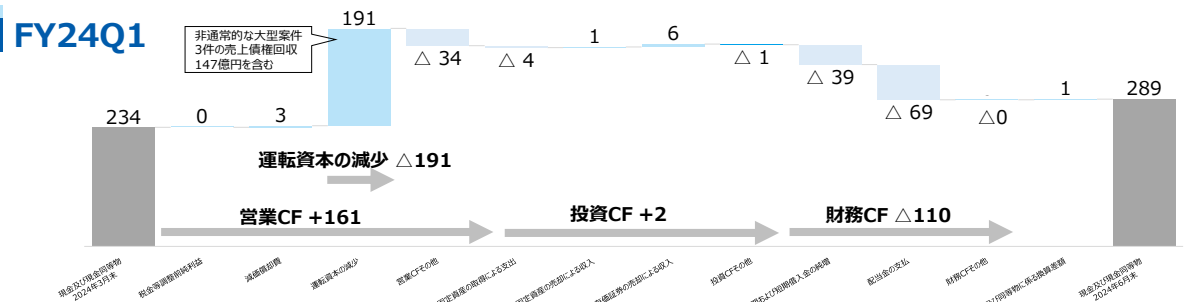
1 キャッシュフロー

(単位：億円)

FY25Q1



FY24Q1



¹ 運転資本の増減は、売上債権、仕入債務、未竣工費支出金、JV工事未収入金、未竣工費受入金、貸倒引当金、工事損失引当金、不動産事業支出金、販売用不動産、立替金、預り金の増減により生じます。詳細はキャッシュフロー計算書を参照下さい。

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

7

では、つづいてキャッシュフローです。上段は今年度の、下段は昨年度の第1四半期の動きを示しています。

当該四半期では、営業キャッシュフローでプラス17億円、投資キャッシュフロー プラス1億円となりました。財務キャッシュフローでは、借入金の返済と配当金の支払いがあり、マイナス93億円となりました。

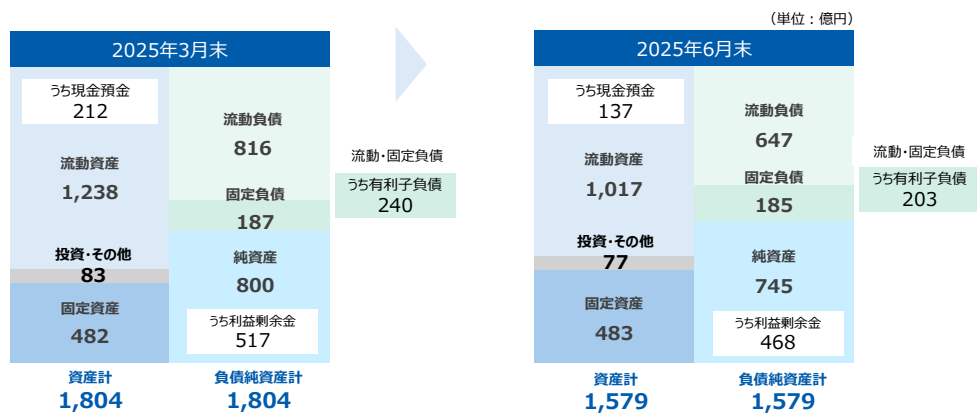
運転資本は、41億円減少しました。これは主に売上債権の減少によるものです。なお、昨年には非通常の大型案件による多額の運転資本減少がありました。

1

貸借対照表

- 流動資産は工事未収入金が176億円減少し、220億円減少
- 有利子負債（主に短期借入金）は36億円減少
- 現金預金は75億円減少
- 純資産は主に配当金支払のため54億円減少

ROICを重視する
経営の効果の端緒



© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

8

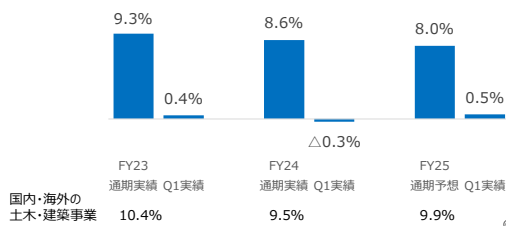
つづいて貸借対照表です。画面で示しておりますとおり、各科目の金額を減少させました。純資産の減少は主に配当金支払のためです。その他の科目での減少は、ROIC（投下資本利益率）を重視する経営の初期の効果と捉えています。

1

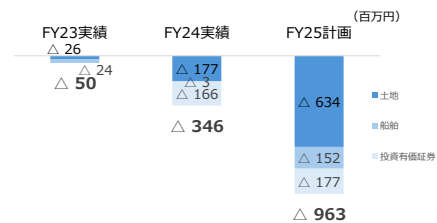
ROIC向上施策の進捗

ROICツリー項目		当社施策	FY25Q1での実行
営業利益の向上		・工事受注ルートへの堅持 ・工事毎の営業利益の可視化	・本社や支店の間接経費を加味した工事案件毎の営業利益見込の可視化を実現
投下資本の適正規模化	固定資産の縮減	・遊休・非効率資産の売却	・土地の売却 (1件 簿価0.1億円)
	投資有価証券の縮減	・純投資目的株式の売却	・上場株式の売却 (5社 簿価1.4億円)
	運転資本の縮減	・支払条件の良化 ・短期借入の縮減	・売掛債権の回収が進み運転資本が減少 (△41億円) ・短期借入金を返済 (△34億円)

■ ROICの推移



■ 資産売却による投下資本の圧縮（簿価の減少）



© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

9

つづいて、ROICについてです。

ROICツリーの項目ごとに、当社の施策と実行の状況を示しています。

営業利益を向上させるために、工事案件毎の営業利益を社内で見える化するようになりました。本社や支店費用の配賦後の間接経費を工事成績に反映させるものです。また、投下資本の規模の適正化に向けて、土地や上場株式の売却、運転資本の減少、短期借入金の返済を実行しています。

2

2026年3月期（通期）業績予想

2

FY25業績予想

受注高を上方修正

		5月時点予想比
売上高	2,000 億円	変更なし
営業利益	120 億円	変更なし
親会社株主に 帰属する純利益	85 億円	変更なし
1株あたり利益	90.50 円	変更なし
年間配当金 (予定)	2025年8月8日付 適時開示「2026年3月期の中間配当及び期末配当予想の修正（無配）に関するお知らせ」の通り、当年度の配当は行いません。＜8月8日修正＞	
受注高	2,246 億円	+ 130 億円 + 6 %

変動要因

5月時点予想比

- 2026年3月期予想値は、受注高を130億円上方修正。国内建築で受注高が増加

＜8月8日修正＞

ついで、25年度通期の業績予想です。

受注高について、5月予想から130億円、上方修正しました。これは国内建築の受注高が増加したためです。

その他は変更ありません。

3 事業別の概況

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

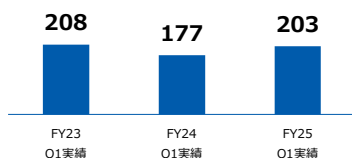
12

これ以降は事業別の概況です。

3 国内土木

(単位：億円)

完成工事高



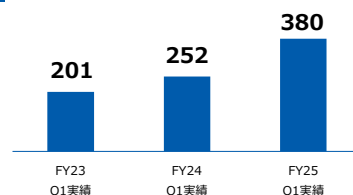
FY25 Q1実績 進捗率：20% / 予想比：+3億円

営業利益



FY25 Q1実績 進捗率：- % / 予想比：△2億円

受注高



FY25 Q1実績 進捗率：35% / 予想比：+59億円

● 前年同期比

- 完成工事高は手持ち工事の進捗により増収
- 営業損失は増収により改善
- 受注高は順調に拡大

● 5月時点予想比

- 完成工事高はほぼ計画どおり
- 営業利益は工事進捗ずれにより若干の未達（新規受注、設計変更）
- 受注高は民間案件の新規受注により上振れ



令和5年度 西日市港西ヶ浦北ふ頭地区岸壁（-14m）本体工事（その2）

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

13

事業別のスライドでは、完成工事高、営業利益、受注高について、3年間の推移で示しています。また、25年度第1四半期の実績について、前年同期比と5月時点予想比での変化点をグラフの下に示しています。

国内土木です。

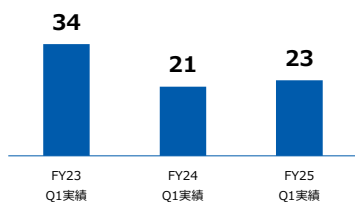
前年同期比では、完成工事高が手持ち工事の進捗により増収となりました。営業利益は増収により損失が縮小しました。受注高は大きく拡大しています。

予想比では、完成工事高、営業利益はほぼ計画どおり、受注高は予想を59億円、上振れました。

3 海外土木

(単位：億円)

完成工事高



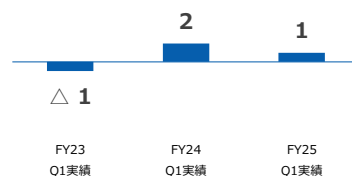
FY25 Q1実績 進捗率：21% / 予想比：△4億円

営業利益



FY25 Q1実績 進捗率：1% / 予想比：△1億円

受注高¹



FY25 Q1実績 進捗率：1% / 予想比：+1億円

● 前年同期比

- 完成工事高は増収
- 営業損失は増収により改善し、ほぼブレイクイーブン
- 受注高は低水準。獲得の季節性平準化に向けて、工種拡大に注力（民間、無償ODA）

● 5月時点予想比

- 完成工事高、営業利益は手持ち工事の進行期ずれのため未達



太平洋セメントフィリピンズ新橋建設工事

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

14

つづいて海外土木です。

まず、前年同期比です。完成工事高は手持ち工事の進捗により増収となりました。営業損失は増収により改善しほぼブレイクイーブンとなりました。

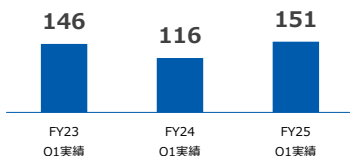
受注高は低水準でした。案件獲得時期の平準化を課題として残しました。民間案件、無償ODA案件など工種の拡大に取り組んでおります。

予想比では、完成工事高と営業損益において、一部工事の進行期ずれによるものです。

3 国内建築

(単位：億円)

完成工事高



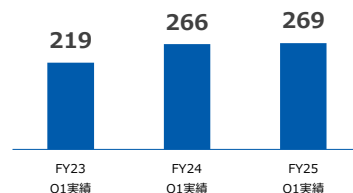
FY25 Q1実績 進捗率：22% / 予想比：△9億円

営業利益



FY25 Q1実績 進捗率：24% / 予想比：+3億円

受注高



FY25 Q1実績 進捗率：35% / 予想比：+108億円

● 前年同期比

- 完成工事高は大幅増収
- 営業利益は増益、増収の好影響に加えて変更工事獲得の押し上げもあった

● 5月時点予想比

- 完成工事高は未達。一部工事の着工時期変更のため
- 営業利益は、追加変更工事での利益の獲得、大型工事の完了により上振れ
- 受注高は、Q2予測の案件が前倒しで獲得できたことや新規案件の獲得により大きく上振れ



アイ・テック北上工場

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

15

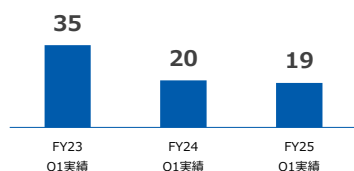
国内建築です。

前年同期比では、完成工事高は豊富な手持ち工事が着工し大幅増収となりました。営業利益は増収の好影響に加えて追加変更工事の獲得があり増益となりました。予想比では、完成工事高は一部の工事で進捗が後ろ倒しとなったため未達となりました。営業利益は追加変更工事での利益の獲得、工事完了時の精算における上振れがあり増益となりました。受注高は第2四半期獲得予定であった案件の前倒しおよび新規案件の獲得があり、大きく上振れました。

3 海外建築¹

(単位：億円)

完成工事高



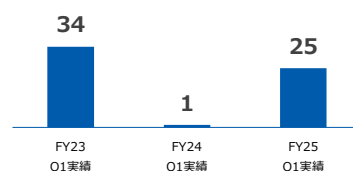
FY25 Q1実績 進捗率：14% / 予想比：△8億円

営業利益



FY25 Q1実績 進捗率：15% / 予想比：△0億円

受注高



FY25 Q1実績 進捗率：24% / 予想比：+22億円

● 前年同期比

- 完成工事高、営業利益ともほぼ横ばい。
- 受注高は、フィリピン現地企業および海外企業子会社からの案件獲得により増加

● 5月時点予想比

- 完成工事高は工事の着工時期や進行状況の変更のため、未達
- 営業利益は若干の未達
- 受注高は、Q2予測の案件を前倒しで獲得したことにより増加



タミヤフィリピン工場

¹ 海外建築は全て、連結子会社CCT CONSTRUCTORS CORPORATION が運営しています。その決算期は連結決算日と異なっており、1～3月を連結の第1四半期に計上します。

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

16

つぎは海外建築です。

前年同期比では、完成工事高、営業利益ともほぼ横ばいでした。受注高はフィリピンでの現地企業および海外企業からの案件獲得により増加しました。

予想比では、完成工事高は着工時期や工事進行の変更により未達。これを受けて営業利益も若干の未達となりました。受注高は第2四半期獲得予定であった案件の前倒しにより上振れました。

連結業績サマリー（FY25Q1）

（単位：表記の無いものは億円）

	FY23 Q1実績	FY23実績 に対する 進捗率	FY24 Q1実績	FY24実績 に対する 進捗率	YoY	YoY %	FY25 Q1実績	通期予想 に対する 進捗率	FY25 通期予想
売上高	426	23%	337	20%	+ 62	+19%	400	20%	2,000
完成工事高	425	23%	335	20%	+ 62	+19%	398	20%	1,993
国内土木	208	22%	177	19%	+ 25	+14%	203	20%	1,040
海外土木	34	26%	21	20%	+ 2	+11%	23	21%	113
国内建築	146	23%	116	19%	+ 35	+31%	151	22%	700
海外建築	35	25%	20	28%	△ 0	△4%	19	14%	140
洋上風力建設	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	1	22%	1	24%	+ 0	+0%	1	26%	7
営業利益	4	4%	△ 3	-	+ 9	-	6	5%	120
国内土木	2	3%	△ 5	-	+ 2	-	△ 3	-	82
海外土木	△ 1	-	△ 1	-	+ 1	-	△ 0	-	6
国内建築	3	12%	5	11%	+ 5	+115%	10	24%	44
海外建築	2	34%	1	20%	+ 0	+16%	1	15%	8
洋上風力建設	△ 2	-	△ 2	-	+ 0	-	△ 2	-	△ 23
その他	0	6%	0	23%	△ 0	△8%	0	24%	2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 1	-	△ 0	-	+ 6	-	5	6%	85
受注高	454	27%	526	+23%	+ 154	+29%	680	30%	2,246
国内土木	201	21%	252	+23%	+ 127	+51%	380	35%	1,100
海外土木	△ 1	-	2	+1%	△ 1	-	1	1%	130
国内建築	219	35%	266	+31%	+ 2	+1%	269	30%	900
海外建築	34	41%	1	+1%	+ 24	+1579%	25	24%	110
洋上風力建設	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	1	21%	2	+24%	+ 0	+28%	2	44%	6

※ 1 億円未満を切り捨てているため合計値は一致しません

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

こちらのページに業績についての説明をまとめましたので、ご覧ください。

4 トピックス

防衛力整備計画

事業規模：

- ・2023年～2027年度の施設強靱化予算 約4兆円
- うち、2025年度以降の予算 約3兆円

当社における重要性：

2025年度の国内土木受注高予想における構成比率 18%

当社受注事例：



石垣島(2)駐屯地新設土木工事（その2）

国土強靱化基本計画

事業規模：

- ・5か年緊急対策（2021～2025年度） 15.6兆円
- うち、2025年度の国土交通省港湾局予算 2,456億円
- ・第1次国土強靱化実施中期計画（2026～2030年度） 20兆円強
- うち、国土交通省港湾局予算 未定

当社における重要性：

2025年度の国内土木受注高予想における構成比率¹ 15%

当社受注事例：



令和5年度 下田港防波堤（西）E区築造工事

¹ 国土交通省港湾局予算に占める国土強靱化関係予算の比率を、当社の国土交通省港湾局からの受注高に当てはめた推定値

最後に事業運営にかかるトピックス3点に触れます。

ひとつは、政府が推進する防衛力整備計画と国土強靱化基本計画の当社業績への影響についてです。国内土木の受注高予想における構成比率は防衛関連が18%、国土強靱化関連が15%となっており、大変 大きな売上高が期待できる分野です。

4

信用格付の向上

- 株式会社格付投資情報センター（R & I）が、5月28日に当社の発行体格付を変更

＜格付対象及び格付＞

	変更後	変更前
発行体格付	B B B +	B B B
格付の方向性	安定的	安定的

- 信用力向上を背景に、財務安定性の強化を図る
 - ・普通社債など直接金融を活用し、資金調達手段を多様化
 - ・市場の変化に応じて、柔軟な資金調達戦略を推進

次は、信用格付けの格上げです。

5月28日に格付投資情報センター（R&I）が当社の発行体格付をBBB+（トリプルビープラス）に引き上げました。信用力向上により、今後財務安定性の強化ならびに普通社債などの直接金融を活用して、資金調達の多様化を進めて参ります。

	発注者	工事名
土木	J F E スチール株式会社	倉敷電気炉土建工事 6 工区
	東京都	お台場海浜公園噴水施設（7）整備工事
	横浜港埠頭株式会社	（本牧）D-5号ターミナルゲートエリア整備工事
	国土交通省中部地方整備局	令和7年度 名古屋港新土砂処分場埋立護岸基礎工事
	国土交通省東北地方整備局	酒田港外港地区岸壁(-12m)地盤改良工事
建築	東京建物株式会社	T-LOGI船橋南海神新築工事計画
	三菱地所レジデンス株式会社	船橋市宮本1丁目計画新築工事
	日野出株式会社	（仮称）日野出株式会社新筑紫野センター第Ⅱ期新築工事
	一般社団法人 日本貨物検数協会	（仮称）築地一丁目計画新築工事
	センコーグループホールディングス株式会社	（仮称）センコーグループ新富士倉庫新築工事

3つめは、この4月から6月に受注した主な工事です。

FY23からFY25にかけての四半期（累計/ 3ヶ月）および年度の実績データを、当社IRウェブサイトに掲載

- 貸借対照表
- 損益計算書
- キャッシュフロー計算書
- セグメント情報（新／旧）
- 工種別 受注高、売上高、繰越高（東洋建設(株) 個別）
- 施主別 受注高、売上高、繰越高（東洋建設(株) 個別）
- 指標

https://www.toyo-const.co.jp/doc/ir/irnews/20250807_FY25Q1_historicaldata.xlsx

最後に実績データ集の掲載場所を今回もお付けいたしました。ご活用ください。

説明は以上です。



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© TOYO CONSTRUCTION All rights reserved.

